

社会福祉法人 宇治福祉園

宇治市



職員間の強い信頼関係を基盤に、職員が子育て中も働き続けられるよう全員で助け合っています。職員一人ひとりがこの職場に必要とされていることを認識し、よりよい保育をめざし協力して働いています。



●いっしょに働く仲間として

法人設立当初から、保育所は仕事と子育てを両立させる家庭を支えているのだから「保育をしている者自身が両立をめざしたい」という思いはありましたが、それでも結婚や出産を理由に退職するケースがあります。そこで法人として、よりよい保育のために職員にできるだけ長く働き続けてほしいということと、一緒に働く仲間としてともにがんばっていききたい、との思いから「子育て中は以前と同じように働けなくても、職員みんなでサポートするので働き続けて欲しい」と働きかけるようにしています。

妊娠中の体調に不安を感じた職員から、産前休暇に入る前に勤務時間を短縮してほしいという希望がありましたので、「どうすれば働き続けられるか」をベースに考え「短時間専任職員制度」を適用しました。たとえ勤務時間が短くてもその職員がいることで、そのスキルや人間関係が保育に生かされ、保育所全体に与える影響は大きいものです。

実際には、学校の入学式や参観日など、休みの希望が集中する日には職員間で勤務日を調整せざるを得ないなどの悩みもありますし、子育て中でない職員の負担が大きくなる場合もありますが、職員全員で相談しながら仕事と子育てが両立できるよう工夫し、各人の状況に応じて柔軟に対応しています。



●マネジメントの工夫

保育園の開所時間が長く、また、職員の使命感が強いため、場合によっては個人の生活よりも仕事の比重がかなり大きくなってしまいうこともありますが、しかし、まず職員自身が幸せでなければよい保育ができないので、できるだけ職員の負担が軽くなるようマネジメントを工夫し、例えば、夜の勤務は事務的な負担を軽減したり、モチベーションを維持できるよう清掃などのルーチンの仕事と室内装飾、保育環境の整備といったクリエイティブな仕事とを組み合わせたりするなどの配慮をしています。

●効率のみで考えない

「自分の子どもを仲間保育してほしいと願う保育園」をめざして日常的に職員ミーティングを大切にしています。お互いに問題をオープンにし情報共有に努めているため、職員間の信頼関係が大変強く、様々な問題を前向きに解決できています。保育の現場では子どもたちを「何かができる・できない」ということで判断しないのと同様に、職員同士も効率のみで判断せず、どうすれば協力して最善の保育ができるかを考えています。

保育という仕事は厳しい面もありますが、一人ひとりがこの職場に必要とされていることを認識し仕事を通じて自己肯定感を高めることにより、職場が「共生社会のモデル」であるように努めています。

社会福祉法人 宇治福祉園

理事長 杉本一義／福祉（保育所、児童デイサービス）

「三室戸保育園」、「Hana花保育園」、児童発達支援事業「宇治福祉園」、宇治市家庭的保育事業「はないろは」を運営している。